絶景の見えるオリーブカフェ

中本 敏文さん　カフェ オリーブアンドライム

沖美町畑地区で「カフェ オリーブアンドライム」を営む中本敏文さん。2011年からここでオリーブを栽培していますが、オリーブとのご縁はそれより前に遡るようです。「市がオリーブを始める10年くらい前ですかね、旅行で小豆島に行き、これはいいなと苗を買って帰って植えていたんです」。その後、市が始めた苗木購入助成制度で苗を買い、樹を増やしていきました。

「オリーブと海と青い空、夕方に見える美しい夕陽。オリーブ園で過ごすうちに、『この景色をたくさんの人に見てもらいたい』という想いが次第に強くなっていきました」と中本さん。広島市内での仕事を早期退職後、本格的なお店づくりが始まりました。

「飲食店で働いたこともなかったので、本当に畑違いのチャレンジでした。今振り返るとようやったなと思います」。木の雰囲気が心地いい店内。ピザやパスタ、カレーなどのランチに加えて、午後のカフェタイムにもコーヒーやケーキを楽しめます。テレビや雑誌にも度々取り上げられ、すっかり島の人気店に。ところが・・。

お店からの景色

「お店の方が忙しくて、なかなか畑の方に時間が割けなくなっていました。ゾウムシが入っているのは気づいていたのですが、侮っていましたね。こんなにもあっという間に枯れていくなんて・・」と話す中本さん。オリーブアナアキゾウムシの被害により、多くの樹が枯れ、新しく苗木を植え直すことに。「畑で採れた実で作るマイオイル*はお店の自慢です。また樹を大きく育てて、オリーブ越しに海が見える景色を再生したいですね」と笑顔で語る中本さん。オリーブと中本さんの挑戦はまだまだ続きます。

カフェ オリーブアンドライム：沖美町畑1252-4
10:00～日没の30分後／月火定休／0823-48-0566

生徒と一緒にオリーブを見つめて

船田 大地さん　広島県立呉特別支援学校 江能分級

能美町鹿川にある江能分級には、校庭の一角に10本の樹が植えられています。2017年1月に行われた植樹式には、明岳市長や江田島市教育長らもかけつけました。それから4年。江能分級では、オリーブを題材としたユニークな活動が続いています。

「2016年に江能分級に着任しましたので、オリーブとほぼ同じ時間をここで過ごしています」と話す船田大地先生。「まずは樹を大きく育てることに取り組みました。生徒たちと一緒にオリーブのまわりの草を抜いたり、水やりをしたり。１か月ごとに樹の高さや幹周りの成長記録をつけていましたので、成長がよくわかり、生徒たちと喜んでいました。手をかけた分だけ育ってくれるので、どんどん愛着が湧いていきましたね」。

植樹時（2017年）

愛情のたっぷりとかけられた江能分級の樹はすくすくと成長し、2018年に初めて数粒を収穫。2020年には約27キロが採れました。「出来たマイオイル*を生徒たちと食べたら、生徒たちも『美味しいね』と喜んでいました」。

大きく成長したオリーブ

江能分級では毎年、高等部の生徒が総合的な探究の時間で「オリーブ栽培で地域おこし」というテーマで考え、纏めています。他にも、剪定枝でおもちゃの車を製作・販売したり、秋には学校からほど近い栽培者さんの園地へ収穫の手伝いにも行っています。

「既存の教科とは違うので、生徒たちと話しながら学習内容を決めています。『あれやってみたいな』『これって出来るかな』などと生徒たちと相談しながら取り組むので、やりがいがあり、楽しいですね」と船田先生。「これからは、オリーブをきっかけに、より地域と関わっていけたらいいですね。生徒たちが地域の人と交流したり、いつか学校で採れたオリーブオイルが江田島市の給食で使われるようになったら素敵ですね」。船田先生と生徒たちの夢が広がっていきます。

地域で育てるオリーブ

宮ノ原自治会といろは会の皆さん

2021年2月25日、旧 宮ノ原小学校の一角に、新たに8本のオリーブが植えられました。宮ノ原自治会といろは会の皆さんが、和気あいあいとおしゃべりをしながら作業をしました。

ここにはすでに5本のオリーブがあり、今回植えたものとあわせると13本になります。「宮ノ原小学校が閉校になってすぐの頃だったかね、まず5本のオリーブを植えました。あんなに小さかった苗木が、こんなに大きくなるとは思わなかったです」と振り返る自治会の皆さん。

宮ノ原自治会の松岡弘幸さん

「オリーブが実をつけるようになったので、苛性ソーダを用意して新漬けを作ってみたり、色々とチャレンジしてきました」と語る皆さん。2020年には約30キロを収穫し、マイオイル*に。出来たオイルは会のメンバーで分け合ったそう。

「オイルの味はどうでしたか？」と聞くと、「もったいなくてなかなか使えんくてね」と笑って話す皆さん。「やっぱり美味しかったです。子どもにも送ったら喜んでくれてね」と嬉しそうな笑顔。

オリーブの世話や日々の作業が、会の皆さんが寄る（集まる）ひとつのきっかけにもなっているようでした。「オイルが美味しかったから、今年もまたみんなで頑張って収穫しなくちゃね」と話してくれた皆さん。地域のメンバーで見るオリーブ園。なんだかとてもいいですね。

＊マイオイル：江田島市では、採れた実は企業に出荷する他に、オリーブ振興協議会へと持ちこみ、自家消費用オイルにして楽しむことが出来ます。詳しくはオリーブ振興室（43-1643）まで。

お孫さんと一緒に

オリーブで健康に

浦上 美由紀さん　大王オリーブ園 うらら

2020年7月、沖美町岡大王の海岸沿いに「大王オリーブ園　うらら」をオープンした浦上美由紀さん。水木金曜日の3日間、浦上さん手作りのお弁当を販売するお店です。

「地域の人の健康に少しでも役に立ちたくて」と語る浦上さんは、福山市での仕事を早期退職後、生まれた島にUターン。草が伸び、荒れていたこの土地にオリーブを植えたのが2013年。「野菜もやってみたのですが大変で、樹ならどうかなと思ってオリーブを植えました」。

樹は順調に成長し、立派な成木が立ち並ぶ風景は海岸沿いのなかでもひときわ目立つ存在になっています。「オリーブを植えてお世話をするうちに、通りすがる地域の人と挨拶を交わすようになりました。長いこと島を離れていたので、地域の人と知り合えるのは嬉しかったです」と浦上さん。

百歳体操にも携わるうちに、島の人の健康が気になってきたと言います。「このあたり（沖地区）には特にお店も少ないですし、ひとり暮らしの方も多いです。そうした方に少しでも喜んでもらいたくて、お弁当屋さんを開きたくなりました」。

日替わりのお弁当には野菜・お肉・お魚と、おかずが盛りだくさん。「自炊だと揚げ物もなかなかしないという方も多いでしょうし、バランスよく栄養を取れるようにと思って日々作っています」。

2019年には、このオリーブ園で採れた実から作ったオリジナル商品を販売。ルッカ種特有の甘みが特徴的なオリーブオイルは評判を呼び、香川県に住む人からも注文が来たそうです。「本物のオリーブオイルを色んな人に味わってほしいです」と話す浦上さん。お弁当を開けて食べ始めると、お弁当を包む帯に込められた浦上さんの想いがじわじわと胸に沁みてきます。「健やかな日々を」。オリーブ園にあるかわいらしい建物で、今日も浦上さんがお弁当を作って待っています。

大王オリーブ園 うらら：沖美町岡大王1959
11:00～13:00（売り切れ次第終了）／水木金曜営業
080-5097-8561